

FSX株式会社

業種の垣根を越え国境を越えるほど
知財の役割はますます重要になる

「おしぼりは物のサービスではなく心のサービス」を理念に創業。おしぼりを軸とした事業活動は多岐にわたり、さまざまな製品を開発し、さらにはEC運営や同業者向けパートナー事業を手がけるなどソフトとハードの両面から新たな価値を生み出している。海外展開も積極的に行い、日本発の「OSHIBORI」文化を広めるために革新的なサービスを創造し展開する、活気にあふれた企業である。

主な権利

2016年：意匠登録 第1564890号
2017年：商標登録 第5943200号
2017年：商標登録 第5953207号
2017年：特許 第6143316号
2020年：特許 第6739772号

会社概要

所在地：東京都国立市泉1-12-3
電話：042-576-9131
URL：http://www.fsx.co.jp
業種：おしぼりやタオルなどのレンタル・商品開発・製造・販売
創業：1967年(昭和42年) 資本金：4,000万円



専務取締役：秋葉 勝さん（後右）
ブランド統括室 広報担当 係長：唐沢 志乃さん（前右）
ブランド統括室 デザイン担当：藤春 千香さん（前左）
総務部 総務課：榎本 郁さん（後左）

心に響く「おしぼり」を軸に
付加価値の高い製品を提供

おしぼり。それは日本のおもてなしの心とも言える。誰もが手にし、清潔さを享受するとともに気分を和らげてくれる大切なものだ。

FSX株式会社は、1967年に貸しおしぼり業の藤波タオルサービスとして創業し、創立50年を機に、次代の50年を見据え、社名をFSX株式会社に一新した。これはFUJINAMI SERVICE XPRESSの頭文字。

「新しい可能性のX(無限)にeXPRESS(押し出す)」という決意を表している。

同社は、飲食店やホテルなどへのおしぼりやタオルのレンタル事業を営み、原材料の調達から生産、洗浄まですべてを一貫して行い、高い品質を維持している。また、天然アロマで香りを付けた、使い切りタイプのおしぼりを開発するなど、次々に付加価値のある製品を提供して多くの人々の共感を得ている。

さらには、ウイルスや菌をブロックとコーティングの力で抑制する「VB(ブイ

ビー)」という技術を生み出し、特許を取得した。コロナ禍を経たこれからの社会でますます注目される、画期的な技術である。

ニッチトップ育成支援を機に
社内の横のつながりを強化

公社とは古くから取引があった。知財センターとは7年ほど前に、このVBの外国特許出願の助成事業の活用において関わりを持ち、以後各種案件で相談するようになった。社名の変更やCIにおいて、商標などの知財に対する取り組みが不可欠だったこともあり、つながりは有意義なものとなり、その流れもあってニッチトップ育成支援を受ける。

秋葉専務は、こう語る。「当社の代表を中心にさまざまな仕事が動いていますが、私と、広報担当、デザイン担当、そして総務。この場にいる4人は、それまで仕事案件ごとに分かれていて、情報がやや分散化していました。ですからニッチトップ育成支援を機に、横のつながりを

強化したいという狙いもありました」

ブランド統括と知財とは
切っても切り離せない

ブランド統括室の広報担当である唐沢さんは「立場上、知財との関係はとても密接になります。知識を得るためにも、ぜひ参加させてほしいと手を挙げました」と語る。また、同じブランド統括室のデザイン担当である藤春さんは「最近では異業種とのコラボが増え、外部とのやり取りが増えていきます。おしぼりに無限の可能性があるので、それに関わる知財の重要性も高まっています」と強調した。

これに続けて唐沢さんが「業種の垣根を越え、また国境を越えてビジネスを展開していますから、それだけリスクも生じます。最近では、当社の商標について海外の異業種から『模倣しているのではないか』と異議申し立てを受けました。知財センターのアドバイザーのサポートもあって適切な対応を行い、無事に解決することができました」と笑顔で語った。



1本のおしぼりの中には、緊張をほぐし、疲れを癒し、人を元気にする力が宿っている。また海外でも「OSHIBORI」という言葉が使われている。

[V][®] VIRUS
[B] BLOCK

「VB(ブイビー)」は、東京工業大学と慶應義塾大学発の合同ベンチャーとFSXの共同研究によって生まれた、抗ウイルス・抗菌を安全にかなえる特許技術である。



使い切りおしぼりは「ポケットおしぼり」として各種商品を展開。香りをまとうアロマのおしぼり「AROMA Premium」は、アロマで人気の3つの香りをおしぼりにしたものだ。左から、シト랄、ペパーミント、ラベンダー。

知財のことが分かると
毎日のニュースも面白くなる

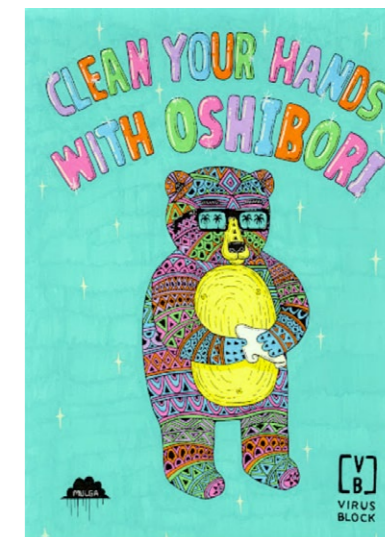
藤春さんは「以前私は著作権の知識ですら怪しいものでした。他の3人は仕事で知財に携わっていましたが、私一人だけまったく分からない。そこから必死に勉強して追いつこうとした成果が出たんです」と微笑む。ニッチトップ育成支援期間の1年目で知的財産管理技能士の3級、2年目で2級の資格を取得。「いざ勉強してみると面白くて、日々のニュースで知財のことを取り上げているのを見てもよく理解できますし、すごく得をした気分になります。勉強中分からないことはアドバイザーにその都度尋ねましたが、質問の倍以上の答えを返してもらいました」と語る。

また、総務部の榎本さんは「当社が開発した、おしぼりを最適な温度で提供する冷温庫『REION』では、特許出願、また意匠、商標でも知財センターに幅広くサポートしてもらいました。私の実務においては知財センターが出しているマニユ

アル、中でも海外知的財産マニュアルがとても役立ちました」と語った。

おしぼりをいろいろなものに
つなげて未来を創造する

支援期間中は、コロナ禍でもあった。「こんな時に、おしぼりにできることはないだろうか？」と考えたFSXは、オーストラリアの人気アーティストである、「MULGA THE ARTIST」のことを知る。このモルガさん、新型コロナウイルスの収束を願って「手を洗おう!」「距離をとろう!」「マスクをしよう!」のイラストを作り、無償で画像提供する活動を行っていた。そこでFSXはモルガさんをお願いし、オリジナルのイラストを描き下ろしてもらった。「Oshi the Oshibori



©MULGA THE ARTIST

オーストラリアの人気アーティストである「MULGA THE ARTIST」がFSXに描き下ろしたオリジナルイラスト、「Oshi the Oshibori Bear(おしぼりベアー オシくん)」。

Bear(おしぼりベアー オシくん)だ。これをFSXは「おしぼりで手を拭こう」啓発キャンペーンの主人公とし、サイトを立ち上げ、壁紙やポスターなどを提供した。おしぼりを使った正しい手の拭き方も伝えた啓蒙活動は大好評。この活動に際して著作権利用に関するやり取りを行ったのもニッチトップ育成支援期間中のことだった。アーティストとの契約は初めてだったが、不安をよそにスムーズな契約がなされたという。

秋葉専務は「今後もトライ&エラーをどんどん重ねながら常に開発する姿勢を持ち、新しいおもてなしの感動を創造したいです。おしぼりの可能性とともに、みんなでいろいろなことにチャレンジし、『未来創造』を行っていきたいと思います」と力強く語った。

知財
センター
から

異業種企業との協業においても知財が大切

ブランド戦略のために、競合他社の製品・サービスとの差別化のために、また異業種企業との協業のために、積極的に知財権を利用している会社です。ニッチトップ育成支援によって人材の育成や社内体制の基盤構築は実現できたと感じます。引き続き同社の知財力、そしてそれを管理する力の向上に期待しています。

担当：萩原アドバイザー